

こどものくすりの使い方

当院では、小児科の薬に関しては、食事に関係なく『朝・昼・夕』のみの指示をしています。食事に関係なく、適当な間隔をあけて服用させてください。しかし、哺乳後に薬を飲ませる場合、満腹で飲まなかったり吐き出したりすることがありますので、空腹時や哺乳の前に飲ませてみてください。また、医師の指示がある場合は、その指示に従って飲ませてください。

飲み薬の飲ませ方

1. 粉薬の飲ませ方

- そのまま水またはぬるま湯で飲ませてよいですが、飲みにくい時には、1回ごとに少量の水またはぬるま湯に溶いて飲ませてください。この時、コップの底に薬が残らないように注意してください。ミルクに混ぜると、味が変わりミルク嫌いになることがありますので、ミルクには混ぜない方がよいでしょう。
- 赤ちゃんの場合は、まずお母さんの指をきれいに洗い、少量の水で練り合わせて、指で頬の内側や上あごにつけてあげた後、水やぬるま湯又は母乳を飲ませてください。
- 好きな食べ物（アイスクリーム、ヨーグルト、チョコクリームなど）に混ぜてもよいですが、この時も薬を全部飲ませるために食べ物の量は少量に抑えてください。また、なかには混ぜると苦くなる薬もありますので、ご相談ください。

2. 水薬の飲ませ方

- 水薬はよく振り混ぜて、別の小さな容器に1回量を入れて飲ませるか、スプーンに取って口の奥の方に入れてあげてください。容器から直接飲ませないでください。
- 赤ちゃんの場合は、スポイトに1回量を取り、頬の内側に流し込んでください。
- 水薬は、色がきれいで味も甘くなっていますので、子供さんがいっきに飲んでしまうことがないように、子供さんの手が届かない場所に保管してください。水薬は一般的に水で薄めたり何種類かの薬を混ぜたりしているので長持ちしません。冷蔵庫に保管して、飲み残しがないようにしてください。また、お薬によっては例外もありますので、医師の指示がある場合は、その指示に従ってください。

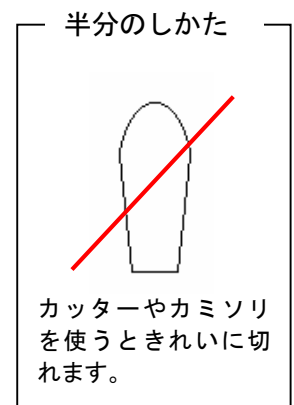
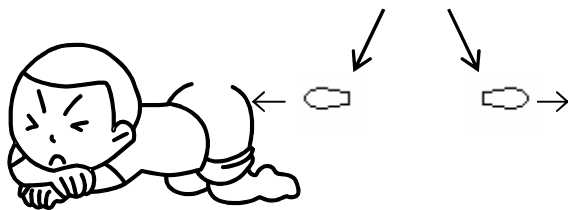


坐薬の使い方

坐薬は、肛門に挿入して使う薬です。子供さんが誤って飲んでしまうことがないように注意しましょう。解熱剤、けいれん止め、排便促進剤、吐き気止めなどがあります。医師の指示に従って正しく使用してください。高温を避け、冷所に保存してください。

- 排便後に使用してください。（排便促進剤は例外です。）坐薬の太くて丸い方を肛門に深く入れ、入れた後しばらく坐薬が出てこないように紙などで肛門を押さえてください。

- 挿入しにくい場合は、水でぬらすと入りやすくなります。
- 坐薬が柔らかくなったら、包装のまま一度冷蔵庫に入れて硬くしてから使用してください。
- 坐薬は、体温で溶けるように作られていますので、使用后、油状の排泄物が出るかもしれませんが、心配はいりません。
- 2種類の坐薬を併用する場合には、坐薬の基材の性質（水溶性・脂溶性）で効果に影響が出てきます。特に医師の指示がある場合を除き、次のように使用してください。
 - ① カロナール坐薬（解熱剤）とナウゼリン坐薬（吐き気止め）を併用する場合
ナウゼリン坐薬を先に使い、その後少なくとも30分以上間隔をあけてからカロナール坐薬を使うとよいでしょう。
 - ② カロナール坐薬（解熱剤）とダイアアップ坐薬（けいれん止め）を併用する場合
ダイアアップ坐薬を先に使い、その後少なくとも30分以上間隔をあけてからカロナール坐薬を使うとよいでしょう。



★ 解熱剤について

解熱剤は、一時的に熱を下げる薬であって、病気そのものを治す薬ではありません。続けて使用する場合は、最低6時間は間隔をあけるようにしてください。子供さんの症状に応じて主治医が指示を出しますので、その指示に従ってください。

- ◎ 医師は、子供さんのその時の状態で薬の量、種類、日数を決めています。そしてそれは、その子供さんのために処方された薬です。他の子供さんには、絶対に飲ませないでください。
- ◎ 1日飲んで症状が出なくなったからといって、お母さんの勝手な判断で薬を止めないようにしてください。見かけ上、症状が抑えられているだけのこともありますから、投与日数分だけはきちんと飲ませて、飲み残しがないようにしてください。（医師の指示がある場合は、その指示に従ってください。）
- ◎ 飲み残した薬は処分してください。

以上、一般的なことを説明しましたが、これを参考に医師の指示に従ってください。